

爆笑落語家の華麗なる芸の継承

二代目・林家木久蔵さん

初代・林家木久扇さん

林家木久蔵さん。テレビや寄席でお馴染みの人気落語家である。

その木久蔵さんがこの秋、長男の真打昇進をきっかけにして、「木久蔵」を長男に譲り、自身は新たに「木久扇」を名乗ることになった。

その「木久扇」さんが語る、落語の面白さ。そして二代目「木久蔵」さんが語る、落語家としての決意。ダブル襲名披露で全国ツアー中のおふたりの話をうかがっていくうちに、自由に伸びやかな「芸の継承」ぶりが浮き上がってきた！。

史上初の親子ダブル襲名 陽気に騒いで長男を成長させたい

木久蔵改め初代「林家木久扇」。
きくお改め二代目「林家木久蔵」。

2007年9月21日の東京・上野の鈴木演芸場を皮切りに、落語界史上初のダブル襲名披露興行をスタートさせた林家木久扇さんと木久蔵さん。現在、全国ツアーの真っ最中であり、どこの会場も立ち見の満員御礼だ。このダブル襲名の認知度と観客の期待度の高さがうかがわれる。

木久扇 あたしは昔から『陽気な騒動』を起こすのが好きでね。発想としては単純ですよ。この人(二代目・木久蔵さん)が、落語家になって13年間、見習い、二ツ目とやってきて、ようやく真打にしてもいいんじゃないかって声が出た。でも親父が有名でもその息子が有名になるのは大変だから、じゃあ『木久蔵』をあげちゃったらいんじゃないかと思ったんです。

木久蔵 今までになかった試みでしたからね。先代が生きているあいだに名前を継ぐ(※1)ってんだから、そりゃ驚きましたよ。父は僕が生まれる前から『木久蔵』でやってきて一代で築き上げたものだから、それを簡単にもらうなんてね。そりゃ、プレッシャーはありましたよ。しかも父は新しく『木久扇』になるという。

木久扇 そう。あたしもただ名前を変えるだけじゃ勿体ないので、『笑点』で名前を公募したらいいんじゃないかと思ったわけです。そうすればこの人も露出が増える。というのも『木久蔵』を襲名するんだからちよくちよく出なきゃいけないですからね。だからテレビ局と一緒に騒ぐと面白いなあと考えたわけです。

それでこの9月から40日間都内の寄席に出演して、そのあと全国ツアーをやってるんですけど、全部二代目がトリなんです。あたしはネタ的にもこの人が演る噺とはかぶらないようなものを演って、二代目がいちばん光るようにしている。そうすると、不思議と貫禄もついてくるんですよ。

木久蔵 つい1年ぐらい前までは、トリを取らせてもらえるなんて考えられませんでした。でも、チャンスを目の前にしたときに、そこに踏み込めるか踏み込めないかが勝負ですよ。だからもう、やるしかないという状態で。

木久扇 この人の前で演るときは、なおさら軽い落語を演ります。あたしはもう『木久蔵』じゃないんだから、何演ってもいい。喋りたい

ネタを喋るようにしています。それでこの人にさあ演りなさい、っていう状態で渡す。それで最後にあたしも舞台に出てきて、二代目と二人で『今後ともよろしくお願いたします』ってやると受けるんですよ。昔は父と子のきずなという認識がありましたけど、今はあまりないですからね。そんな落語家の親子がいるっていうことは、なおさら貴重なんじゃないかと思っただけなんです。

伸びやかで自由な教え方が 落語の心を育ててくれた

父と子でありながら、師匠と弟子の間柄でもある木久扇さんと木久蔵さん。木久蔵さんが父に弟子入りしたきっかけは、あくまで軽い気持ちだったという。

木久蔵 落語家っていい商売だな、と思ってました。だって1日24時間あるうち、高座に上がるのはせいぜい30分ですからね。残りの23時間30分ずっと遊んでいられるって。ははは。

木久扇 遊ぶ内容にもよるんだがね。

木久蔵 見習いから入りましたが、全然休みはなかったし遊ぶどころじゃありませんでした。それに落語に出てくる『長屋』とか『与太郎』『ご隠居さん』といった設定は、落語が好きの人にとっては当たり前の世界ですけど、見習いで落語を始めた頃はさっぱり理解できなかったんです。

木久扇 あたしの場合、日本橋の生まれだったこともあり、小さい頃はまだちょっと江戸が残ってました。もちろん長屋もありました。言葉としても『上がり框』(※2)とか『火消し壺』

(※3)という言葉が日常に出てきましたから、落語の世界に近かった。でもこの人はマンション暮らしですから、まったくそういうものがなくて、想像して演らなきゃいけないので、なおさら大変だったと思うんですよ。

木久蔵 寄席で落語を聞いていると、まわりのお客さんは笑っているのに、僕だけ意味がわかんなくて取り残されたことがあったんです。あれはすごく悔しかったですね。だから誰でもわかるような落語を演りたいと思っています。たとえば『へっつい幽霊』(※4)を演るときは、『へっついってのは、今で言うお釜みたいなもんです』っていう話から始めてました。

木久扇 この人が偉いと思ったのは、いろんな師匠のところに稽古をつけてもらいにいったところですね。

木久蔵 父はまったく型にはめないタイプなので、逆にこっちはしっかりしなきゃいけないと思いました。とにかく落語の元を知らないわけですよ。だからとにかくやるしかないと思って。特に小朝師匠(※5)にはお世話になりました。

木久扇 小朝師匠からは、礼の尽くし方から生き方まで指導されたみたいです。あたしはそんなことは全然言わなかったけど。

木久蔵 父が押しつけるタイプだったら、僕は落語家にならなかったと思います。もともと父は自由な人でしたしね。

木久扇 あたしの師匠の八代目林家正蔵(※6)も、落語の基本は教えてくれましたけど、そこからあとは『自分でこさえるものだから』とよく言っていましたね。あたしがラーメン党(※7)を作ったときも、師匠は『何をやっても



もともと百年以上前のものが残っているわけだから、**斬自体はしっかりしているし、いまだに面白い。**



PROFILE

林家木久蔵 | はやしや・きくぞう

1975年東京生まれ。玉川大学文学部芸術学科卒業。95年、父である林家木久蔵の門下となる。96年前座入り、林家きくおとなる。99年、二ツ目昇進。07年、二代目林家木久蔵として真打に昇進する。

いいけど、落語の心に帰ってこない駄目だよ』
と言ってきてね。伸びやかだったですよ。
それが伝わってるんでしょう。

お客さんを笑わせるために
伝統を守り、時代を見据える

江戸の時代から続く落語。何百年ものあいだ、
人々に親しまれてきた伝統芸能ではあるが、
その魅力はどこにあるのだろうか。

木久蔵 落語の素晴らしいところは、ちゃんと
演れば現代の人たちでもハートをしっかりと
つかむことができることです。もともと百年
以上前のものが残っているわけだから、斬自体
はしっかりしているし、いまだに面白い。

木久扇 あとね、着物姿になることも大きい。
着物を着ると落語家は異次元の人になっ
ちゃって、お客さんもそう思って聴いてくれる。
着物姿で扇子持って、金屏風があってお囃子
で登場するっていう衣裳やデザインでお客さん
を違う世界にいざなってるんです。

木久蔵 父の落語会は大きな会場だと二千人
ぐらいのお客さんがいるんですけど、そこに
ひとり高座が上がって、爆笑させて下りて
帰ってくるのって滅茶苦茶格好いい。そんな
ことができる商売ってほかにないですからね。
僕、父の落語を聴いたあと、お客さんの感想
を耳にしたことがあるんですが、それがまた
いいんです。だって『あー面白かった、何だか
よくわかんないけど』って。ははは。覚えて
ないですよ、父の斬。でもそれが落語家と
してすごく大事なことだと思うんです。

木久扇 あたしは全国に公演に行きますけど、
そうすると落語を演ってもお客さん、わかっ
てくれないですよ。だいたい落語っていうのは
江戸や上方の斬で全国的なものじゃないんです。

ですから、なるべくわかりやすいものを演り
ます。たとえば冠婚葬祭をネタにした斬で
あればお客さんはよくわかってくれますし、
あたしは物真似ができますから、いろんな
映画俳優や政治家の声色を出したりして、
そういうのをひっくるめてわかりやすい落語を
演っている。

木久蔵 最近は『タイガー&ドラゴン』(※8)の
ようなドラマがあって、ジャニーズの人が落語
を演ってくれたりして、ありがたいことです。
若い人にとっても落語は身近になりつつあり

ますね。

木久扇 あたしなんかは、いつ寄席がなく
なってもいいや、という腹でいます。いつまでも
昔のものにすがってなくちゃいけないとい
うのは切ないしね。そうなるというの間に
時代とそぐわなくなってしまうわけだから、
守るのではなくて、攻めることが、落語のよ
うなやわらかい芸でも大事なことです。

木久蔵 僕らがやったダブル襲名とか、林家
いっ平さんが三平を襲名(※9)したりする
動きは、落語界の新しい流れになると思

守るのではなくて、
攻めることが、
落語のような
やわらかい芸でも
大事なことです。

PROFILE

林家木久扇 | はやしや・きくおう

1937年東京生まれ。56年、漫画家・
清水崑氏に弟子入り。漫画家をめざす
が60年に崑氏の紹介で、三代目桂
三木助門下となる。61年、桂三木助
逝去後、八代目林家正蔵門下へと
移り、林家木久蔵となる。65年、日
本テレビ『笑点』のレギュラーメン
バーとなる。72年に真打昇進。全国ラ
ーメン协会会长、落語協会理事などを務
めている。07年、木久蔵の名を長男に
譲り、「木久扇」を名乗る。



ます。その中に僕なんかがひとつのピースとしてはめ込んでもらえてるわけですし、幸せなことだと思います。そういえば、小朝師匠に訊かれたことがあったんですよ。『君はどんな芸人になりたいの?』って。それで僕、『息の太い芸人になりたいです』って。

木久扇 それを言うなら、『息の長い芸人』だって!

伝統を守りつつ、やわらかな発想でこれからの時代を渡っていこうとする木久扇さんと木久蔵さん。日本文化の伝統を維持し、発展させていくためのヒントが今回の取材に隠されているのではないだろうか。

Text by: 植田マサユキ

- ※1 歌舞伎や能の世界では、先代が存命中に名跡を継ぐことがあるが、落語界では初の試みである。
- ※2 「あがりかまち」と読む。玄関の上がり口で履き物を置く土台のことを言う。
- ※3 使用した炭火を消すための壺。火消し壺で消した炭は、次に火がつきやすい火種となる。
- ※4 道具屋にあるへっついから幽霊が出る噺。このへっついの中から三百両が出てきたのを見て、長屋に住む熊と若旦那がすっかり使い果たすのだが、金を返してほしいと幽霊が出てきて騒動を起こす。
- ※5 春風亭小朝さん。1955年東京生まれ。五代目春風亭柳朝入門。80年に異例の36人抜きで真打昇進を果たす。落語界の復活のために、さまざまな改革をおこなっている。



BOOK

木久蔵流
がんばらない子育て
教育評論社・刊



BOOK

木久蔵一代 **バカの中身**
うなぎ書房・刊

- ※6 1895年東京生まれ。1950年林家正蔵を襲名。芝居噺や怪談噺の伝統を守った。最晩年は「彦六」と改名する。82年没。正蔵の名跡は、林家三平の長男・こぶ平さんが05年に襲名した。
- ※7 1981年、木久扇さんがラーメン好きの仲間を集めて結成。木久扇さんは党首を務めている。
- ※8 2005年、TBS系列で放送されたドラマ。脚本は宮藤官九郎。主演は長瀬智也と岡田准一。浅草の落語家に弟子入りしたヤクザをめぐるコメディ。
- ※9 2009年に、林家三平の次男いっ平さんが父の名跡を襲名することが予定されている。



CD

キクキクラクゴ
コロムビアミュージック エンタテインメント・販売



WEB

林家木久扇・公式HP
<http://www.toyota-art.jp/>

にっぽんきち

日本吉

n i p p o n - k i c h i

<http://nippon-kichi.jp/>

Linkclub

to the future, produced by KAI

日本の美意識で綴る **自薦他薦** **無料サイト**

日本吉は、あらゆる日本の美意識を
Webサイトの中に集め、その豊かさを共有し、
世界に発信していきます。

自薦他薦無料サイトです!

「日本吉」は、日本人がデザインしたもの、日本でつくられたもの、日本の文化が活着しているものなど日本の美意識が表現されているものであれば、自薦他薦を問わずどなたでも記事や画像を無料で投稿できます。

日本の美を世界へ発信します!

日本の美を世界に同時発信するために、英語による表示切替を設置しました。これによって世界中の人々に日本文化や美意識を紹介することができます。

マジックガーデンと結びついています!

マジックガーデンに出店中のショップで日本の美意識が表現されている商品は、日本吉からショップにリンクを張ることができます。その場合、マジックガーデンのロゴが表示されます。